

## グランプリレポート

今回行われました全日本学生ジムカーナ選手権大会の当日の様様をまとめましたので、結果報告と共に掲載させていただきます。

当部の試合車両は、先日の全関東ジムカーナ選手権で優勝しました、ホンダ・シビックEG6で、昨年同様今大会も全日本制覇を狙いに行きます。

本大会は、全関東戦や全日本ジムカーナとは異なるルールで試合が進行します。最も異なる点は、決勝の前日に予選が開催されることです。前日の午前中に、各校の3選手が、1本ずつ公式プラクティスとして走ります。このタイムはその後には影響しません。そして、午後に予選が始まります。予選は公式プラクティスと同じように、各校の選手が1本ずつ走り、各校の上位2名の選手のタイム合計が、各大学の予選タイムとして認定されます。その予選タイムで上位15チームに入れれば、決勝では1人2本ずつ走れますが、上位15チームに入れなかった場合、つまり予選落ちした場合、決勝で1人1本しか走れないという、厳しいハンデを背負うこととなります。また、予選で万が一マシントラブルなどにより、一人も走れなかった場合、予選タイムなしとなり、失格となります。

さて、当部は大会の2日前から鈴鹿に入り、練習会を行いました。そこで、マシンのセッティングの最終調整を行い、公式プラクティスと予選に備えました。他の大学、特に関西勢に関しては、その実力のほどが練習会で初めて分かるため、部員総出で他の大学の走り確かめました。一方、選手たちは、車載カメラの映像や、データロガーに集中し、走行直後に自分のドライビングを確認します。そして、他大のタイムと比較した結果、近畿大学、関西大学、慶応大学、中央大学との接線になるのではないかと、思われました。

そして予選日、公式プラクティスが行われました。公式プラクティスでは、当日の気候、路面の状況に合わせて、タイヤの選択や空気圧、セッティングの微調整を行わなければなりません。



プラクティスの模様

1走、2走が無事終了し、3走のエース今村の走行中に事件が起きました。突然、マシンから乾いた音がした後、力なく車が停止したのです。すぐにピットクルーがマシンに向かい、コースからマシンを外に出します。ドライバーである今村は状況について、「突然駆動が伝わらなくなり、エンジン吹け上がるようになってしまい、何速にいれても駄目だったので、すぐに

ニュートラルにして惰性で停止した。」と語っています。このとき即座に考えられたトラブルとしては、ドライブシャフトの破損か、ミッションブローでした。ただ、縁石に乗った直後だった為に、おそらくドライブシャフトの破損ではないか、という判断が下され、すぐにピットで点検に入ります。その結果、ドライブシャフトには異常がなく、ミッション本体であろうという結論に達しました。こうなれば、もうミッションを降ろすしかありません。ピットクルーはただちにミッション外しの作業に入ります。

しかし、我々の手元にはスペアミッションがありませんでした。すぐに他の大学や近くの自動車専門店を探し回りますが、なかなかどこも持っていません。そうこうしている間に、予選が始まってしまいました。当部の1走者目は出走できません。規定によって、3走者すべてが走らなかった場合、リタイヤとなってしまう、決勝に出ることはできません。どんなタイムでも良いので自走して一周できれば、決勝へと望みを繋げる事ができます。各大学の1走者目が走り終わった時点で、ミッションが降り



ピットクルー総出でのミッション降ろし

ました。しかし、降ろしたところでスペアミッションが無ければ意味がありません。それはつまり、スペアミッションがなければリタイヤとなる、ということの意味します。そして、当部が2走者目もノータイムとなった時、中央大学からミッションを借りることができました。中央大学からお借りしたものは、EK9用のミッションでしたが、わが部のEG6に装着可能であったため、貸していただき、早速作業に入ります。しかし、時間はわずか30分たらずしかありません。そこで、出走順を一番最後に回せないか、という内容の嘆願書を書き、大会本部に提出しました。嘆願の結果が出ないまま、受け入れられることを信じて、必死で作業を進めます。そして、早稲田3走者目が出走できなかった後、車が完成しました。ピットレーンに車を運び、まさに出走しようとした時、嘆願は受け入れられない、という裁定が下りました。このようにして、当部の全日本ジムカーナ選手権大会は、リタイヤという結果に終わりました。

今回、このような不甲斐ない結果に終わり、部員にとっては非常に悔しいものとなりました。また、多大なるご支援を頂いているにも関わらず、リタイヤという結果に終わってしまい、大変申し訳ありませんでした。来年度は今回の借りを返すつもりで、個人・団体の優勝を取りに行く所存です。これで今年度のスピード競技はすべて終了となりましたが、来年以降も早稲田大学自動車部をよろしくお願い致します。